

日経メディカルOncology調査◎消化器癌におけるアナモレリンの処方動向

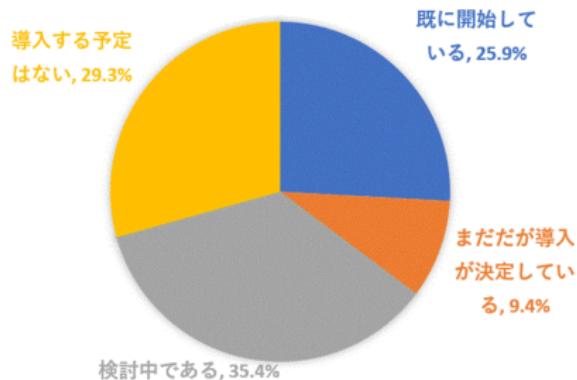
25.9%の医師がアナモレリンの処方を開始

アナモレリンで消化器癌の治療が変わると考える医師は5割超

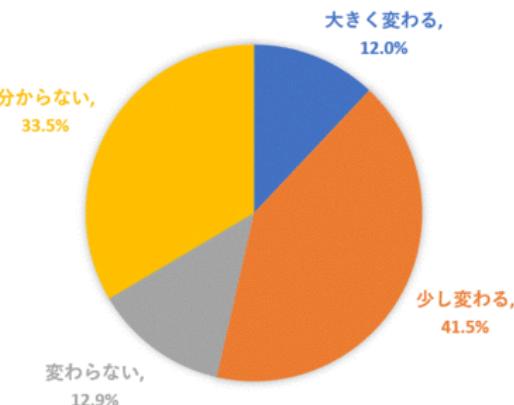
2021/11/22

日経メディカルOncologyでは、がん悪液質を適応とする薬剤アナモレリン（商品名：エドルミズ錠）が世界に先駆け日本で1月に承認されたのを受け、消化器癌における現在の処方動向調査を行った。調査対象は、日経メディカルオンライン会員のうち会員情報として消化器外科、消化器内科、腫瘍内科、その他の外科、緩和医療科を選択している医師で、調査期間は2021年10月18～24日。告知対象25375人のうち982人から回答があった。

まず「あなたの施設ではアナモレリンの処方を開始されていますか？」との設問には、「既に開始している」254人（25.9%）、「まだだが導入が決定している」92人（9.4%）、「検討中である」348人（35.4%）、「導入する予定はない」288人（29.3%）との回答があった。



次に「アナモレリンの承認により進行消化器癌の治療は変わりましたか？または変わると思いますか？」という設問には、「大きく変わる」118人（12.0%）、「少し変わる」408人（41.5%）、「変わらない」127人（12.9%）、「分からない」329人（33.5%）という回答だった。



アナモレリンを処方している理由、あるいは処方していない理由、またがん悪液質の治療について思うところを自由に記入してもらったところ、以下のコメントが寄せられた。

- ・がん悪液質の一つの治療薬になる（大学病院・消化器外科）
- ・悪液質のコントロールはこれまでステロイド剤や漢方薬で行われてきたが、本剤の登場は画期的と評価している（私設病院・消化器内科）
- ・機序を含め、画期的な薬剤だと思います（公設病院・緩和医療科）
- ・がん悪液質患者にアナモレリンがどの程度効果があるのか？ いま大学病院や癌の専門施設で投与症例が増えていますが、もう少しその結果を見てみたいと思っています（私設病院・消化器外科）
- ・近く導入予定であるが、悪液質の診療・治療が劇的に変わるとはどう考えても思えない（公設病院・消化器内科）
- ・あまりにもざっくりした患者群が投与対象となっており、奏効するかどうかにはかなりの不信感がある（私設病院・消化器外科）

解析回答者の属性

所属施設：大学病院160人、がんセンター42人、公設病院かつがん診療連携拠点病院114人、公設病院94人、公設民営化病院かつがん診療連携拠点病院43人、公設民営化病院22人、私設病院かつがん診療連携拠点病院88人、私設病院299人、その他120人

所属診療科：消化器内科455人、消化器外科277人、肝臓内科18人、肝胆膵外科21人、腫瘍内科48人、腫瘍外科10人、緩和医療科34人、その他119人

（まとめ：日経メディカルOncology編集部）